

PTAひろば

令和8年9月
新玉小学校PTA
会長 小木曾 新
広報委員会

第2回坊っちゃん学習『子どもの見守りについて

～スクールガードリーダーに聞いてみよう～』

講師：松山市地域学校安全指導員・スクールガードリーダー 長野 明宏 氏



9月11日(金)、元警察官・検死官というご経歴を持つ長野明宏さんをお迎えし、第2回坊っちゃん学習を開催しました。数多くの現場を経験されてきた長野さんだからこそ語れる「命の重み」と「本当の交通安全」について、貴重なお話を伺いました。

大人が子どもの命を守るためにどうすればいいのか（長野さんの手記より抜粋）

鈴木保(たもつ)君(仮称)は、8歳で夭逝した。放課後友達の家に向かう途中のいつもの横断歩道で自動車にはねられて亡くなった。

彼は、友達の家で遊びたいという、はやる気持ちを押さえきれずに道路に飛び出してしまった。事故現場付近でたまたま捜査をしていた私の無線機が事故を知らせた。現場に駆けつけたとき、彼はすでに息をしていなかった。

時間が止まったような現場で、私は喘ぎながらも、泣き崩れる自動車の運転手をなだめ、救急車の到着を待つ間、彼に心臓マッサージをし続けた。無駄だとは知りながら…。

ご遺体をご家族に引き渡した時の母親の慟哭を忘れることはできない。人間は、絶望を前にあのような声を出すことを知った…。

もしも、彼があの時横断歩道を前にして、「道路に飛び出すことがなかったら」彼は今頃、奥さんと子どもに手を焼きながら、仕事の愚痴をこぼすありきたりな日常を生きていたと思う。平凡な幸せを生きていたと思う。

もしも、タイムマシンがあったなら、20数年前のあの日、彼が事故を起こす直前に時を戻して、彼の肩を引き留めたい…。

長野さんは上記のような思いから、日々見守りを行ってくださっています。夕方の見守り中、「ここで止まって右左見てね」と声をかけると、ある男の子が振り返って「ありがとうございます!!」とお辞儀をしてくれたそうです。「警察官人生でこんなにうれしいお礼を言われたのは初めて。新玉小の子どもたちは情緒豊かで本当にすばらしい!!」とお褒めの言葉をいただきました。

💡 講演でお話しされた「本当の交通安全」

「事故の70%は放課後の飛び出しによるものです。もし大人が適切に対応できれば、事故は必ず無くせます!!」と長野さんは力説されます。

1 大人の役割は「車を止めること」ではなく「子どもを止めること」

大人が旗振りで車を止めて渡らせてしまうと、子ども自身が周りを見なくなってしまいます。スマホ運転のドライバーも増えている現代では、青信号でも油断はできません。親がいない放課後でも自分で身を守れるよう、「車が完全に止まるまで子どもを止めて、自分で安全判断させること」が大切です。

2 今日から家庭で徹底する「4つの約束」

- ① 横断歩道の手前で一度止まる
- ② 右を見て、左を見て、もう一度右を見る
- ③ 手をしっかり上げる
- ④ 車が止まるまでは、絶対に道路に出ない



💡 質疑応答＆防犯ワンポイントアドバイス

Q 市民病院前交差点は一方通行で車が多い、子どもが班長でよいですか？

A 子どもがリーダーとなり安全を確認の方がよい。親が一生懸命してしまうと子どもの成長を阻害してしまうことになる。子どもが班長になり安全のリーダーシップをとれるようになるのが大切。

Q 交通量の少ない横断歩道で気を付けることはありますか？

A 交通量が少なくても左右確認を徹底させる。
集団登校の光と影で班長以外の子どもが思考停止してしまうから、班長以外の子どもにも個々に手を上げて左右確認するように指導する。

Q 危険な道路はどこですか？

A 全ての道路!!

Q 不審者対策はありますか？

A 子どもが変な人に気づくことが大切。危険箇所ではなく、人の多い所で声をかけて連れて行かれることが多い。防犯ブザーがきちんと鳴るか点検をしてください。

参加された保護者の感想(アンケートより)

●「今までの見守りに対する意識が変わりました。」

当番で旗を使っていたが、自分の行動が子どもの注意力を奪っていたかもしれないと気づかされました。子どもの自主的な行動を促すためにも、まずは大人の意識を変えることが必要だと分かりました。

●「家庭で身につけさせたい」

今までやっていたことが子どものためになっていなかったとハッとさせられました。自分の身は自分で守れる子に育てるため、家庭でも繰り返し教えていきたいです。

●「全保護者に広めたい素晴らしいお話でした」

目からウロコの話ばかりで、本当に有意義な講演会でした。今回参加した人だけでなく、学校全体や全保護者にもっと発信してほしい内容です。



編集後記

長野さんの手記にある悲劇を二度と繰り返さないために何ができるか深く考えさせられ、これまでの「旗当番」の概念が大きく変わる気づきの時間となりました。

子どもの命を守る鍵は、過保護ではなく「子どもの自立と判断力」にあります。これを機会にご家庭でもお子様としっかりと話し合い、できることから一つひとつ実践し、自主性を養っていきましょう。

子どもたちが10年後、20年後も笑顔で元気に過ごせるよう、学校・地域・家庭が一体となって、自分で自分の身を守る子を育てていきたいですね。

講師の長野さんおよびご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。